

# 欧州現地調査報告

---

RE/CE施策に関する欧州業界団体の意見

**MRI** 株式会社三菱総合研究所

# 欧州現地調査

- 経済産業省委託業務において、2015年12月7日～10日までベルギー・ブリュッセルに滞在し、欧州の業界団体より、Circular Economy Packageに対する意見を中心に、RE/CE施策について意見を聴取した。
- 訪問先は、以下のとおりである。

訪問先機関	組織の概要
IMA-Europe : Industrial Minerals Association (欧州鉱物工業会)	EU域内の10の鉱物資源業界団体で構成されており、産業鉱物の代表団体である。
EUROPEN : European Organization for Packaging and the Environment(欧州包装容器環境協会)	欧州の容器包装サプライチェーンの業界団体。容器包装サプライチェーン(素材、製造者、研究開発、包装・梱包、製品所有者)、各国業界団体、政府、NGO/NPO等により設立された団体である。
Eurochambre (欧州商工会議所団体)	欧州の商工会議所の業界団体であり、欧州の中小企業の代表団体である。
FEBEM-FEGE(ベルギー環境事業連合)	ベルギーの廃棄物処理業者の業界団体。欧州廃棄物管理・環境サービス連盟(FEAD)に加盟している。
EuRIC : European Recycling Industries' Confederation(欧州リサイクル産業連盟)	欧州鉄回収リサイクル連盟(EFR)・欧州再生紙協会(ERPA)・欧州金属取引リサイクル連盟(EUROMETREC)の3組織が合同で2014年に設立した欧州のリサイクル業者の統括団体。
Eurometaux : European Association of Metals (欧州非鉄金属業協会)	欧州の12カ国の非鉄金属業の協会であり、各金属の業界団体及び21社の非鉄精錬の企業から構成されている。

※本調査報告は、筆者がヒアリングにて聞き取り、理解した内容に基づいたものであり、各団体の公式見解ではありません。

## 現地調査結果概要 (1/2)

動脈寄りの主体(メーカー、中小企業)は自主的アプローチを求める声が強く、静脈寄りの主体(リサイクル業者、廃棄物処理業者)は実行性の確保やさらなるインセンティブを求める声が多い傾向。

- 今回のCEPに関する今後の動向
  - CEPのコンセプトには基本的に合意。CEPの実行性には課題があるとの認識。
  - 一次資源メーカー、製品メーカー、中小企業は、規制強化への懸念があり、市場ベースのボランタリーな施策を望む声。
  - リサイクル業者、廃棄物処理業者は、廃棄物法令の改正案の目標は下がったが、製品デザインからのアプローチは歓迎。二次原料の品質基準やEoW(End of Waste)基準については、今後の動向を見守る様相。
- 競争力向上・雇用創出の可能性
  - CEPの取組はシェアリングエコノミー等の新たなビジネス機会を生み出すものであることは各団体が認識。
  - リサイクル産業の雇用創出はあるが、その他分野での具体的な可能性は指摘されず。
- 製品の生産・消費に関する検討の方向性
  - エコデザイン指令の作業計画(2015-2017)の具体的な内容を待っている状況。
  - Recyclabilityを達成するためには、メーカーとリサイクル業者の連携が重要と指摘。
  - 製品環境フットプリントのパイロットプロジェクトは幅広く認知されているが、自主的なアプローチであるとの見方が大半。また、消費者への情報提供ツールとしては複雑すぎると指摘。

## 現地調査結果概要 (2/2)

- 企業による取組の推進の方向性
  - いずれの主体も、バリューチェーンのステークホルダー間の対話は、今後重要になってくるものであり、有益であるというという認識が高い。
- 廃棄物管理・二次原料市場に関する検討の方向性
  - 二次原料(Secondary Raw Materials)は明確な定義はなく、バリューチェーンによって必要性も異なるという意見(金属は市場ベースで循環しており不要。プラスチックは必要)。
  - EoWについても資源(廃棄物)の移動の促進に資するという認識がある一方で、リサイクルの品質管理も重要という声、リサイクル業者・廃棄物処理業者から上がっている。
  - 二次原料市場の創出には、インセンティブ(税制優遇、公共調達)が必要との指摘。
  - 廃棄物法令の改正案によって、リサイクル率の定義や計測手法の明確化が進んだと評価される一方で、実施面での課題も指摘。
  - 化学物質管理に係るデータ収集・提供は、リサイクル・廃棄物管理の面で実施することは困難と指摘。
- CEPの材料セキュリティについて
  - 希少資源(Critical Material)の確保についての今後の手段はECからの提言を待つ姿勢だが、EU域外からの調達が困難な資源への対応の必要性はいずれの主体も認識。

# ①IMA-Europe (欧州鉱物工業会)

- IMA Europeは、EU域内の10の鉱物資源業界団体※で構成されており、産業鉱物の代表団体である。

(※) 欧州炭酸カルシウム協会、欧州ホウ酸塩協会、欧州特殊鉱物協会、欧州ベントナイト協会、欧州石灰協会、欧州長石生産者、欧州シリカ生産者協会、欧州タルク生産者科学協会、国際珪藻土生産者協会、欧州カオリン及び塑性粘土協会

欧州で予想される今後の要請		意見・立場
製品設計	エコデザイン推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エコデザインについて、製品のrecyclabilityの向上に向けて、一次原料供給者として協力する準備はできている。<u>バリューチェーンでのアプローチが重要</u>である。</li> </ul>
生産プロセス	ベストプラクティス推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鉱山開発工程で発生する鉱業廃棄物からの原料のリカバリーは近年取り組んでいることである。企業の利益にもなることであり、関心が高い。</li> </ul>
消費	情報の信頼性確保(公正な商慣行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>製品環境フットプリント</u>は数多くあるラベル等の調和やバリューチェーン全体での統合的なアプローチを求めて検討しているもの。現在は各業界が<u>ボランティアベースで参加しているパイロット</u>段階。</li> </ul>
	グリーン公共調達推進	—
廃棄物処理・管理	リサイクル目標向上	— (直接的影響はないと認識)
	処理施設の任意認証	—
	EPR 最低基準	—

※本調査報告は、筆者がヒアリングにて聞き取り、理解した内容に基づいたものであり、各団体の公式見解ではありません。

# ①IMA-Europe (欧州鉱物工業会)

欧州で予想される今後の要請		意見・立場
再生資源	二次原料品質基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>二次原料の基準は興味深いが、<u>二次原料市場がないことが最大の問題であり、市場創出が必要</u>。</li> <li>市場がある素材は自然にリサイクル産業がある(鉄など)。リサイクルを重視するCEPは国際経済の観点がやや欠けている印象。</li> <li>リサイクル素材によって、一次原料と二次原料の基準が類似したものになるか、異なってくるかは違う。<u>一次原料と二次原料で公正な競争環境を作るべき</u>。</li> <li>二次原料が一定の利用基準を満たすためには、一次原料が必要となる点に留意が必要。</li> </ul>
	化学物質問題への対応	—
全体	新たなビジネスモデル創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネス機会の創出にはつながるが、どの程度の雇用創出につながるかはわからない。</li> </ul>
	開発・投資の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>イノベーションは重要だが、市場が求めるスピードに追い付けないかもしれない。</li> <li>EUファンドはアカデミック研究と市場ベースの研究の架け橋になる。</li> </ul>
	複数指標によるモニタリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>単一のリード指標ではなく、<u>複合的な指標が提案されていることを評価</u>。前回提案の重量ベースのリード指標は、製品の機能面等が考慮できず懸念していた。</li> </ul>

※本調査報告は、筆者がヒアリングにて聞き取り、理解した内容に基づいたものであり、各団体の公式見解ではありません。

## ②EUROPEN（欧州容器包装環境協会）

- EUROPENは、欧州の容器包装サプライチェーンの業界団体である。容器包装の素材やシステムを特定せず、包装容器と環境に関するテーマを対象に活動している。
- 容器包装サプライチェーン（素材、製造者、研究開発、包装・梱包、製品所有者）、各国業界団体、政府、NGO/NPO等によって構成されている。

欧州で予想される今後の要請		意見・立場
製品設計	エコデザイン推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エコデザイン指令ではエネルギー関連製品が対象とされているため、現時点では関係ない。</li> <li>● プラスチックは金属と異なって、リサイクルよりは軽量化による発生抑制の方が経済的インセンティブが働く。<u>Recyclabilityのプレッシャーが現在強いが、そのみにフォーカスするのは望ましくない。</u></li> </ul>
生産プロセス	ベストプラクティス推進	—
消費	情報の信頼性確保（公正な商慣行）	● ラベルは各国で不統一の状況である。
	グリーン公共調達推進	—



## ②EUROPEN（欧州容器包装環境協会）

欧州で予想される今後の要請		意見・立場
廃棄物 処理・管 理	リサイクル目標向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物関連の目標も緩和され<u>現実的な目標</u>となった。</li> <li>容器包装やリユースが進みにくいものもあり、リサイクル率目標において、<u>リユースも考慮されるようになったことは懸念</u>している。</li> </ul>
	処理施設の任意認証	—
	EPR 最低基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>各国のEPRスキームの透明性やアカウントビリティーを確保するために重要である。</li> </ul>
再生資 源	二次原料品質基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>二次原料には品質基準が必要になる。今後EoW基準は規格化されていくだろう。</li> <li>プラスチックでは、最も取り組みやすいPETから検討が始まるだろう。</li> </ul>
	化学物質問題への対応	—
全体	新たなビジネスモデル創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しいビジネスモデルは生まれるとは思いますが、シェアリングエコノミー等により、製造業等の雇用が落ち込む可能性もある。社会全体として雇用増になるのかは分からない。</li> </ul>
	開発・投資の促進	—
	複数指標によるモニタリング	—

※本調査報告は、筆者がヒアリングにて聞き取り、理解した内容に基づいたものであり、各団体の公式見解ではありません。



### ③EUROCHAMBRES(欧州商工会議所団体)

- EUROCHAMBRESは、欧州各国の商工会議所から構成された業界団体である。
- 2000万社以上を代表しており、その約9割が中小企業である。

欧州で予想される今後の要請		意見・立場
製品設計	エコデザイン推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在のエコデザイン指令ではエネルギー関連の規定に留まっているが、<u>recyclability, durability, reparability</u>に広がると、<u>中小企業は対応が困難</u>になる。</li> </ul>
生産プロセス	ベストプラクティス推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Industrial Symbiosisは大企業が参画すれば効果がある。中小企業にとってもメリットはあるが、大企業が主導権を発揮する必要がある。</li> </ul>
消費	情報の信頼性確保(公正な商慣行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製品環境フットプリントは<u>ボランティアベースの取組</u>であれば歓迎する。</li> <li>● 大企業が製品環境フットプリントで全てのバリューチェーンを評価すると、中小企業も協力を求められる懸念がある。</li> </ul>
	グリーン公共調達推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グリーン調達について懐疑的である。<u>公共調達において義務化するとマーケットを歪める</u>ことになる。公共調達において情報提供を義務化するのは良い。</li> </ul>

※本調査報告は、筆者がヒアリングにて聞き取り、理解した内容に基づいたものであり、各団体の公式見解ではありません。

### ③EUROCHAMBRES(欧州商工会議所団体)

欧州で予想される今後の要請		意見・立場
廃棄物 処理・管 理	リサイクル目標向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>リサイクル目標や埋立の<u>目標は、より現実的になった</u>と考える。</li> </ul>
	処理施設の任意認証	—
	EPR 最低基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>EPRの最低基準については、懸念している。まだ具体化しておらず曖昧な状況である。</li> </ul>
再生資 源	二次原料品質基準	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>二次原料に係る記述は歓迎</u>する。ただし、現在品質の基準がないため、その策定に向けて進んで欲しい。</li> </ul>
	化学物質問題への対応	—
全体	新たなビジネスモデル創出	—
	開発・投資の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>Horizon2020等の支援制度は歓迎する。</li> </ul>
	複数指標によるモニタリング	—

※本調査報告は、筆者がヒアリングにて聞き取り、理解した内容に基づいたものであり、各団体の公式見解ではありません。

## ④FEBEM－FEGE（ベルギー環境事業連合）

- ベルギーの廃棄物処理業者の業界団体。欧州廃棄物管理・環境サービス連盟（FEAD）に加盟している。
- ベルギーで活動している約200の廃棄物・リサイクル関連企業の代表である。

欧州で予想される今後の要請		意見・立場
製品設計	エコデザイン推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● recyclabilityを伝える取組を進めてきているが、<u>recyclabilityを高めても回収できなければ意味がない</u>という点は留意すべき。分別回収のロジスティックも必要。</li> <li>● 製品のデザイン側での意識向上が必要。</li> </ul>
生産プロセス	ベストプラクティス推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Industrial symbiosisは複数のプロジェクトが実施されているところ。廃棄物処理業者と製造業者をつなぐ第三者がいるケースが多い。</li> </ul>
消費	情報の信頼性確保（公正な商慣行）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製品環境フットプリントなどの考え方は良いが、どの側面を優先するか、政府の決定が必要。</li> </ul>
	グリーン公共調達推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 二次原料の利用促進に活用すべき。</li> </ul>

## ④FEBEM－FEGE（ベルギー環境事業連合）

欧州で予想される今後の要請		意見・立場
廃棄物 処理・管 理	リサイクル目標向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標が下がったことはやや残念であるが、リサイクルが進んでいない国にとっては<u>現実的な目標</u>になったと評価。</li> <li><u>目標設定は、push policyであり、リサイクルの促進のためには、pull marketと共に考える必要がある。</u>再生材の利用率の目標などがあると良かった。</li> </ul>
	処理施設の任意認証	—
	EPR 最低基準	—
再生資 源	二次原料品質基準	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>二次原料市場創出のためには、品質・量・価格が重要</u>である。再生材の品質管理と安定的な一定量の供給が必要である。価格は変動するものだが、市場が成長すればpull marketになり価格も安定していくと期待できる。</li> <li>再生材の利用促進には、グリーン公共調達や税制度の活用が必要。バリューチェーン全体での促進が求められる。</li> </ul>
	化学物質問題への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物処理分野での化学物質のトレーサビリティは課題。循環の中での扱い方はまだ課題が多く議論しているところ。</li> </ul>
全体	新たなビジネスモデル創出	—
	開発・投資の促進	—
	複数指標によるモニタリング	—

※本調査報告は、筆者がヒアリングにて聞き取り、理解した内容に基づいたものであり、各団体の公式見解ではありません。

## ⑤EuRIC(欧州リサイクル産業連盟)

- 欧州鉄回収リサイクル連盟(EFR)・欧州再生紙協会(ERPA)・欧州金属取引リサイクル連盟(EUROMETREC)の3組織が合同で2014年に設立した欧州のリサイクル業者の統括団体。
- 5500のリサイクル業者及び金属取引業者の代表である。

欧州で予想される今後の要請		意見・立場
製品設計	エコデザイン推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リサイクル業者にとって<u>recyclability</u>は重要であり、製造業と協力していく。すべての製品に適用できるrecyclabilityの計測手法は現実的ではなく、製品別の対応になるだろう。</li> </ul>
生産プロセス	ベストプラクティス推進	—
消費	情報の信頼性確保(公正な商慣行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 消費の段階では、分別排出が重要である。</li> </ul>
	グリーン公共調達推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 二次原料の利用促進に活用すべき。</li> </ul>

※本調査報告は、筆者がヒアリングにて聞き取り、理解した内容に基づいたものであり、各団体の公式見解ではありません。

## ⑤EuRIC(欧州リサイクル産業連盟)

欧州で予想される今後の要請		意見・立場
廃棄物 処理・管 理	リサイクル目標向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部の国にとってはまだ野心的な目標と言える。</li> <li>リサイクル率の計算はリサイクルプラントの一次選別後にすべきと考える。</li> </ul>
	処理施設の任意認証	—
	EPR 最低基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>各国のスキームが異なっていることは問題。コスト、透明性、目標などは調和が図られるべき。</li> <li>EPRは有用ではあるが、廃棄物の流れ(stream)別に対応すべき。</li> </ul>
再生資 源	二次原料品質基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>二次原料価格は一次原料価格と連動しており、<u>二次原料市場の拡大策としては、二次原料に対するインセンティブ(減税等)やグリーン公共調達などが重要。</u></li> <li>廃棄物の<u>輸送手続の簡易化</u>も必要。</li> <li>基準や規格は、国際標準化することも重要。</li> </ul>
	化学物質問題への対応	—
全体	新たなビジネスモデル創出	—
	開発・投資の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>EUのファンドもあるが、企業が主体となることが最も良い。</li> </ul>
	複数指標によるモニタリング	—

※本調査報告は、筆者がヒアリングにて聞き取り、理解した内容に基づいたものであり、各団体の公式見解ではありません。

## ⑥Eurometaux(欧州非鉄金属業協会)

- Eurometauxは、欧州の非鉄金属業の業界団体である。持続可能な原料調達・消費、リサイクル、気候変動、エネルギー政策、貿易等の分野におけるEUの政策に重点を置いている。
- 12カ国の非鉄金属業の協会、各金属の欧州大の業界団体や、21社の非鉄精錬の企業から構成されている。

欧州で予想される今後の要請		意見・立場
製品設計	エコデザイン推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エコデザインについて、<b>特にrecyclabilityの向上が重要</b>である。</li> </ul>
生産プロセス	ベストプラクティス推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 再生資源の生産プロセスにおいて、リスク管理の法制度化が進むと、リサイクルの際の手間が増え、ひいてはリサイクルがしにくくなる懸念がある。</li> </ul>
消費	情報の信頼性確保(公正な商慣行)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 消費者に対するコミュニケーションは重要である。製品の使用方法やリサイクルのされ方を理解してもらうようにする必要がある。</li> </ul>
	グリーン公共調達推進	—



## ⑥Eurometaux（欧州非鉄金属業協会）

欧州で予想される今後の要請		意見・立場
廃棄物 処理・管 理	リサイクル目標向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>リサイクル目標はあまり野心的ではなかった。</li> <li>リサイクル率の測定時点が明確になった点を評価する。</li> </ul>
	処理施設の任意認証	<ul style="list-style-type: none"> <li>WEEEやバッテリーといった特定の廃棄物においては、<u>リサイクル施設の義務的な認証制度が必要</u>であると考える。</li> </ul>
	EPR 最低基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>EPRについては、ルールを明確化・共通化する必要があるが、具体的にどのように基準を定めるのかが課題となる。</li> </ul>
再生資 源	二次原料品質基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>競争上の公平性を確保するために、<u>品質基準においても要求事項が共通化</u>される必要がある。特に<u>有用な資源が多く含まれるWEEEの二次原料の品質基準に関心</u>がある。</li> </ul>
	化学物質問題への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学物質管理が強化されると、複雑な組成の廃棄物の処理が進まなくなる危険性がある。</li> </ul>
全体	新たなビジネスモデル創出	—
	開発・投資の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種支援制度は歓迎するが、申請手続きが複雑で時間がかかるという問題はある。</li> </ul>
	複数指標によるモニタリング	—

※本調査報告は、筆者がヒアリングにて聞き取り、理解した内容に基づいたものであり、各団体の公式見解ではありません。